

2026年8月10日（月）

老球の細道934号

試練の四日間

会津バスケットボール協会 室井 富仁

残暑お見舞い申し上げます。

現役教員、コーチだった頃、今の時期になると、生徒、選手達の口から出る言葉は決まって「アジー（暑い）、アジー、アジー」のアジー蟬の鳴き声である。元来、暑さに強く、「寒がり病」を自負する私は、この時とばかり生徒選手達に向かって、「夏は暑い、冬は寒い、蚊に刺されれば痒い。当たり前のことを口に出さず、これからやることに集中しよう」とドヤ顔で話していた。さらに体育館や合宿所のホワイトボードには「暑かったら、もっと熱くなれ、そしてさらに厚くなれ（人間的に）！」というスローガンを記していた。

先週の四日間は久しぶりの猛暑の中で5回のクリニック要請があった。5日（水）、7日（金）会津高校女子（マッカビモーションオフENSE）、6日（木）会津クラブU-15（プレスアタック）、8日（土）午前、福島県成年男子選抜チーム（アドバイザー）、午後坂下ミニバスチーム（トランジションオフENSE）というスケジュールだった。体調と猛暑の環境でやれるかどうか不安であったが、こんなアウト老爺様に声をかけてもらえたことに感謝して引き受けた。

時は広島、長崎原爆投下81周年のニュースが流れ、また熊本大地震の被災地の様子が落ち着かない状況で、今でも普通の日常がままならない生活を余儀なくされている人たちがたくさんいる。そんな中で私は大好きなバスケットボールを、そして私以上にバスケットボールを好きな選手達とクリニックができたことに感謝したい。

4チーム共に日頃のバスケットのみならず、生活指導の細かい所までコーチの指導が行き届いており、挨拶も完璧で、教えさせてもらう私としては気持ちよく指導することができた。特に日常的に指導していないクリニックについては、選手の挨拶に注目している。なぜなら「挨拶」というのは単なる儀礼的な意味だけではなく、「心を開いて相手に迫る」というお互いの人間関係における情熱、誠実さを表す指針だからである。お互いに挨拶がスムーズにできる関係にあつてこそ、お互いに教え、教えられることがより充実したものになるのではと考えている。余談であるが「挨拶の3原則」①先手必勝②大きな声で③頻繁に。

ミニから中学、高校、成年と異なるカテゴリーの指導で、テーマの違いはあったが、やはり強くこだわったのはファンダメンタルの指導であった。声を出してボールを呼ぶこと、低いスタンスで構えること、ストップをきちんとやること等等であった。「神は細部に宿る」という箴言があるが、細かいところ、地味なところ、簡単なことをおろそかにする者は結局大成しない。このことは、たとえ選手に嫌われても常に言い続けたいと思っている。

最後に、今回試練の四日間を与えて、乗り越えさせてくれた会津高校の大内慎也先生、会津クラブの渡部大介氏、坂下ミニの鈴木新氏、そして成年男子の渡部清和氏に心から感謝したい。この夏、永遠のライバル郷ひろみの「アッ（暑）チッチ🎵」に負けないで熱くなる。